



目次

巻頭あいさつ 1
 コロナ禍と大学の新しい対応 笠原清志学長 2
 「第二回文の京書道展」を開催して 横田 恭三先生 3
 (一紫会オンライン作品展) 紙上映写 4
 角川武蔵野ミュージアム訪問 6
 総会報告 7
 事務局より・大学より 8

第二代会長 伊藤嘉夫先生筆

一紫会

統一テーマ
 考えよう
 私達の大学を
 私達のなすべきことを
 自己と社会の発展のために

紫祭実行委員会



1967年 第1回「紫祭」テーマ 卒業アルバムより
 左 第8回美術部・右 第8回写真部

つながろう！一紫会

「桜花」画 花蹊喜寿記念手帳より 花蹊記念資料館提供

あいさつ

幹事長 羽吹綾子



一紫会会員の皆様、
 ごきげんよう。

今年は新型コロナウィルス感染拡大により、世界中の人々がこれまで経験したことのない不自由な生活を余儀なくされました。

今年にはコロナ禍以来、世界が初めて一つになったイベントとして、五十七年ぶりに東京でオリンピック・パラリンピックが開催されるなど、少しずつですが、昨年とは違いコロナ禍でもできる可能性、希望の光が見えてきたように感じますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

大学卒業式・一紫会入会式は、感染防止対策を万全にした上、二部制にて無事執り行われ、晴れて九百五十一名の新たな一紫会会員をお迎えすることができました。卒業記念品といたしまして、学祖・跡見花蹊先生御筆の桜がモチーフとなっております。おめでとうございます。花蹊先生が卒業生に詠まれたお歌「忘るなよわが学びやの藤袴その紫のたふとかる色」にもありますように、跡見で学ばれたことを忘れることなく、大きく羽ばたいてくださることを切に願っております。ご卒業、誠におめでとございます。

昨年中止となりました大学紫祭ですが、今年には「花車く新しい紫祭へ」をテーマに初のオンラインでの開催(10/30・11/6)となっております。花車(IIガーベラ)の花言葉は「希望」「前進」です。一紫会でも希望の光を持ち、前向きに歩みたいと

の思いから、急遽「卒業生のオンライン作品展」(紫祭サイト <https://atomi-yukaries.com/>)として参加させていただくことになりました。一紫会ホームページでも近日公開を予定しておりますので、紫祭ホームページと併せてぜひご高覧くださいませ。

「一紫会だより」の表紙に使われている写真は、第一回紫祭のテーマと作品展のもので、五十年以上の月日が流れ、時代は変化しても、先輩方の想いを受け継ぎ、跡見の建学の精神「自律し、自立した女性」が変わらずにあるのだと実感し、胸が熱くなる思いでございます。これから先も跡見への変わらぬ思いを胸に、希望の光として前進してまいります。

二〇二五年に跡見学園は創立一五〇周年を迎えます。その記念事業の一つとして、新座キャンパスに新学生会館が建設されることになり、十月四日には地鎮祭が執り行われました。一五〇周年記念事業推進のため、また学園の更なる発展のため「跡見さくら咲く募金」に深いご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、一紫会ではリモート会議などコロナ禍でもできる可能性を追究し、ニューノーマル時代の活動をとめることなく、精一杯取り組んでまいります。

支部会は残念ながら今年も開催できませんでしたが、全国の会員の皆様との絆で、心はいつもつながっていると信じて。今後も会員の皆様に楽しんでいただけるよう一紫会常任幹事一同、さまざまな企画を考えておりますので、ぜひご期待くださいませ。また笑顔でお目にかかれる日まで、ごきげんよう。

コロナ禍と

大学の新しい対応

学長 笠原清志 先生



1 はじめに

コロナウイルス感染症は未だ収束せず、最近ではデルタ株の脅威が全国的に拡大しています。今後、大学はコロナとの共存を前提に、半年あるいは一年以上の授業形態を考えざるをえない状況となっています。コロナの問題が深刻だからと言って、すべての授業を遠隔でやっていたら問題が解決というわけではありません。その際には、学生、教職員の健康には十分な配慮をしながらも、大学として不可欠な教育機能をどのようにして維持するのか、ともすれば矛盾し対

立する要素のどこにシステム上の接点を求めるのか、難しい選択をしなければなりません。

私は、対面授業こそ教育の原点であり、遠隔授業を余儀なくされても、どのようにしたら対面授業を一部でも維持できるかについて模索してきました。といいますのは、対面授業における教師と学生との人格的交流、そして学生間のネットワークの形成こそ、卒業後の人生の宝になっていくと考えるからです。秋学期の授業形態ですが、デルタ株などの状況に鑑み、講義科目については原則として遠隔授業とし、ゼミ等については対面授業で行うといったようにバランスをとり、状況の改善に伴い徐々に対面授業を増やしていくようにしたいと思います。



2 新しい動き

学生のクラブ・サークル活動は、この一年半の間、事実上停止状況になっています。また学生の自主的な活動の

集大成とも言えるべき紫祭も、昨年は中止、今年はオンラインでの実施を余儀なくされています。このようにコロナ禍の影響は授業形態だけでなく、学生の自主的活動も含め学生生活全般に渡って多くの制約を課すものでした。同様に、海外の大学との交流事業、派遣、受け入れもほぼ全面的に中止と言ったことになっています。私自身も、当初、コロナの問題がここまで長引き、そして大学のあり方全般に渡ってこれほどの影響を与えるとは思っていませんでした。

他方で、コロナ禍が長引くのに対応して、学生間、あるいはゼミやサークルではSNSを通じた各種のネットワークや情報共有の形成、先生方においてはオンラインでの授業改善のFD (Faculty Development) が開催され、新しい教育環境への対応と適応のプロセスも始まっています。教育方法の改善と新しいノウハウの共有については、その重要性については以前から指摘されていたが、どうしても前に進まなかった課題でした。同様に、大学レベルでも他大学に先駆けた角川武蔵野ミュージアムとの連携協定の締結「東京都の「大学等による観光経営人材育成事業」(三年間、総額三千万円)の受託、そして卒

業生の学び直しの一環として大学院への入学推進プロジェクト等、新しい動きも具体化してきました。

3 女性や高齢者の学び直し

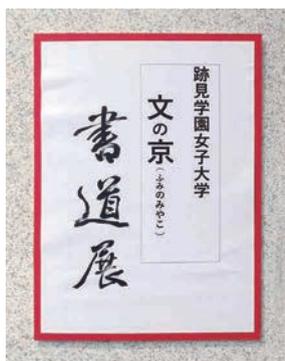
女性や高齢者の学び直しは、スキルや資格の習得だけでなく、今後の人生をどのように生きていくかという問題と切り離しては考えられません。ロンドン・ビジネススクールのリンダ・グラットン教授は、著書「ライフ・シフト」の中で、人生を教育、仕事、引退の三つのステージに分けるのではなく、三つのステージを組み合わせて生きる「マルチ・ステージ」といったあり方を提案しています。一紫会の皆さんも、跡見学園女子大学の大学院でもう一度学び直すことによって、人生を再構成し、より豊かなものにしてみたいかがでしょうか。

コロナ感染症は、日本社会が抱えている問題を一気に表面化させたと言われています。他方で、新しい対応のプロセスが、跡見学園女子大学でも徐々に形成され、次の時代への新しい可能性が出てきたことも事実です。私はコロナウイルスの負の影響だけでなく、それを克服しようとして創造される新しい可能性も等しく見ていく必要があると思っています。

「第二回

文の京書道展」を

開催して



人文学科教授

横田 恭三 先生

七月八日～二十五日、文京区シビック・ホールのギャラリーにて「第二回文の京書道展」を開催しました。内容は、本学学生と教員の作品十四点、高校生の招待作品四点・海外の招待作品二点および文京区民や本学教職員の手になる「コロナ禍の終息を願う書」約五十点です。この展覧会の目的は、①文京区民との連携・協働による生涯教育推進及び社会貢献 ②本学学生の書の表現力と鑑賞力の向上 ③首都圏の高等学校への教職課程（書道）の認知。この三つを掲げています。

本学学生の作品については当初二十～二十五点を想定していましたが、対面とオンラインとの併用授業のため、思うように作品が集まりませんでした。また書道の盛んな首都圏の高校に依頼しレベルの高い作品を出品してもらいましたが、これは本学とのパイプを太くしたいとの思惑からです。海外の大学（今回は北京第二外国语学院）へ依頼した理由は、たとえ思想信条は違っても同じ漢字文化圏の作品を鑑賞することで、参観者に何かを感じ取ってほしいと願ったからです。



横田閑雲作「篆書八字」(中央)



さらに、例年五月～六月に開催している「文京アカデミア講座」の方々の作品を展示する予定でしたが、緊急事態宣言下で講座そのものが中止になってしまいました。そこで地域交流課の貴堂さんの発案で、「跡見菊坂塾」を訪れた方々に「コロナ禍終息を願う書」を自由に揮毫してもらいました。協力された方々、そしてご高覧下さった皆様に厚く御礼申し上げます。

お墓参り報告

学祖跡見花蹊先生の

お墓参りご報告

二〇二〇年十一月七日、茗荷谷本部で行われた一紫会常任幹事会の後、幹事一同徒歩にて、学祖跡見花蹊先生の墓所のある光圓寺（文京区小石川）へ向かいました。



当日は風もなく、汗ばむほどの秋晴れに恵まれ、皆さんで墓所周辺のお掃除など行なって参りました。

最後にお花とお線香を手向け、コロナ禍にありながらも跡見生の変わらぬ修学成果などをご報告して参りました。

注：御命日は1月10日。

2021オンライン紫祭 参加動画

《一紫会オンライン作品展》紙上映写

二〇二二年八月、今年度の紫祭はオンラインにて開催との連絡を受け、一紫会では急遽参加を決めました。急ぎ支部の皆様のご協力も得て、「一紫会オンライン作品展」の動画を作成・公開するに至りました。作品の一部を本紙に掲載いたします。下記のURLから、全作品を動画でご覧いただけます。(公開期間10/30~11/6)

<https://atomi-yukarifes.com/>



①



②



③



④



⑤



⑥



⑦



⑧



⑨



⑩



⑪



⑫



⑬



⑭

— 作品詳細 —

画像下の数字に対応

- ① 北海道支部 宮澤眞智子 6回生 英文
陶芸 ポーセリン・レースドール 二〇一九年製作 磁器泥漿・レース
(タテ300mm×フチ260mm×高さ300mm)
- ② 中部支部 異相由美 6回生 英文
墨彩画「風の詩(うた)」二〇一五年製作 画仙紙・墨・顔彩
(タテ80mm×フチ50mm)
- ③ 北陸支部 近藤敬子 3回生 美学
書「漢字 信」一九九〇年製作 (タテ1,145mm×フチ585mm)
- ④ 中部支部 鈴木綾子 16回生 美学
七宝焼「月さき」二〇二二年製作 (タテ230mm×フチ300mm)
- ⑤ 四国支部 多田美子 18回生 美学
トールペイント「息子へのウエディングプレート」二〇一六年製作
木材 (タテ450mm×フチ450mm)
- ⑥ 北陸支部 木本結 31回生 美学
水引細工「桔梗のリース」二〇二二年製作 色水引
(タテ190mm×フチ210mm×高さ45mm)
- ⑦ 中部支部 笹木美樹 19回生 美学
陶芸 染付花器「海」二〇二二年製作 陶土
(タテ140mm×フチ140mm×高さ370mm)
- ⑧ 四国支部 中美津代 10回生
押し花アート「押し花でアート」二〇二一年製作
ネリネ・バラ・ラナンキュラス・パンジー・ラベンダー・メラスフェルラ
- ⑨ 常任幹事 若泉雪子 2回生 国文
織ビーズ「ネックレス」
- ⑩ 常任幹事 土田りかこ 12回生 美学
つまみ細工 エステルフルール「蘭」二〇一九年製作
ポリエステルジョーゼット・スワロフスキー・他
(タテ150mm×フチ75mm×高さ35mm)
- ⑪ 九州支部 服部菜実子 8回生 美学
アクセサリー タディングレース「ブローチ(バラ)」二〇一八年製作
レース糸 (タテ100mm×フチ60mm×高さ30mm)
- ⑫ 新潟支部 新井悠鷲 20回生 国文
いけばな 二〇一六年製作 しゃくやく・他
(タテ150mm×フチ90mm×高さ60mm)
- ⑬ 中国支部 松浦啓子 7回生 英文
ポーセラーツ 二〇二〇年製作
- ⑭ 甲信支部 宮沢美穂 17回生 国文
デコラティブデザイン「記憶ー水中に差し込む光のようにー」
二〇二二年製作 生花 プリザーブド (タテ350mm×フチ180mm)



19



18



17



16



15



24



23



22



21



20



29



28



27



26

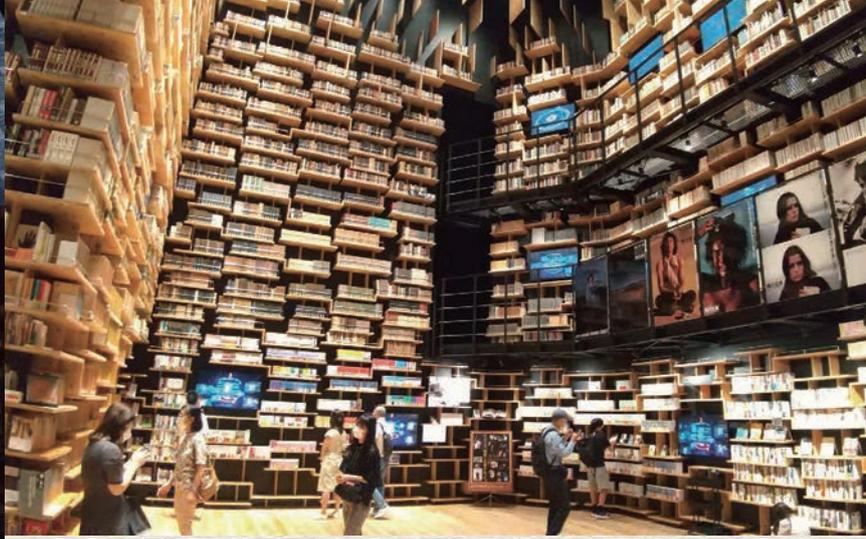


25

- 15 北陸支部 小林葉子 8回生 英文
書「李白詩（静夜思）」二〇一〇年製作（タテ330mm×ヨリ450mm）
- 16 関西支部 片桐悦子 3回生 美学
華道「古木とヒヤシンス」二〇一九年製作 雲龍梅・根付きヒヤシンス
（タテ500mm×ヨリ400mm×高さ1300mm）
- 17 常任幹事 吉田真知子 2回生 美学
陶芸「陶杯シリーズ 杯三点」二〇一六年製作
陶土・青銅釉・辰砂釉・白マット釉（高さ80mm）
- 18 東北支部 圭子 8回生 美学
銅版画「夢のあとに」二〇一八年製作（タテ310mm×ヨリ400mm）
- 19 常任幹事 城井万美代 13回生 美学
茶道「一年を通しての茶室の設え」二〇二〇年製作
- 20 甲信支部 飯田多恵子 10回生 文化
テーブルコーディネート「地元ワインでおもてなし〜マリァージュ〜」
二〇二〇年製作
- 21 幹事長 羽吹綾子 28回生 英文
文化刺繍「百花繚乱」（タテ680mm×ヨリ800mm）
- 22 新潟支部 片桐アユ子 美学
水彩画「マッターホルン」二〇二〇年製作 水彩・色鉛筆
（タテ410mm×ヨリ318mm）
- 23 静岡支部 小澤友里 6回生 国文
日本画「母の想い出」二〇〇七年製作 麻紙ボード・岩絵の具
（タテ530mm×ヨリ410mm×高さ17mm）
- 24 北海道支部 舟山真理子 6回生 国文
紅茶コレクション「紅茶で楽しむ人生」一千個以上の紅茶缶
フラワーアレンジメント
- 25 新潟支部 中尾早苗 7回生 国文
二〇二〇年製作「アティフィシャルフラワー
パン」二〇二一年製作
- 26 中国支部 山本静香 26回生 国文
パン
- 27 関西支部 佐伯友佳子 18回生 美学
料理「お気に入りのイギリス料理」
二〇一五〜一八年製作「サマーブディング
パン」
- 28 東北支部 小野寺晶子 8回生 国文
パン「フランスパン」二〇二一年製作
グラハム粉・小麦ふすま・五穀入り
- 29 常任幹事 御所文子 13回生 美学
アクセサリー「ネックレスとコサージュ」
二〇一五年製作 Silk生地
（タテ60mm×ヨリ60mm×高さ40mm）



角川武蔵野 ミュージアム 訪問



2020年“NHK紅白”でYOASOBIがパフォーマンスした本棚劇場



2021年9月20日、武蔵野線東所沢駅からミュージアムを目指してスタート。今回は、跡見学園女子大学が角川武蔵野ミュージアムと連携協定を締結した唯一の大学とされたご担当の大学文学部現代文化表現学科教授 富川淳子先生に同行させていただきました。照り葉のさくら並木を抜けて（駅から10分程）いよいよ、ところざわサクラタウンへ。すると大地からせり出した巨大な岩山が出現、それは樹の造形家とされた隈研吾氏の新作、岩石で外壁を覆った偉大な建造物でした。

先生のご案内で先ず、本棚劇場へ。ここには約3万冊のあらゆるジャンルの書籍がところ狭しと、360度・高さ8mまで積み上げられた本棚に並び壮観の一言に。更に30分ごとに本棚をステージに、精鋭のクリエイターによるプロジェクションマッピングがすごい迫力で展開されます。



観客は思い思いに「本と遊び、本と交わる」空間をテーマ別に或いは手探りで、目前に出現した通路を進んでいました。その先には博物館（荒保宏ワールド）、美術館が拡がり、あっという間に数時間が経過していました。館内は撮影可でしたが思わず写したものは、若い少年が本棚前の椅子に一人、本を大事そうに抱きかかえ読み耽る姿でした。デジタル社会に紙文化を取り戻す！頁を捲り熱心に読む少年にルノアールの『読書する女』が重なり、疲れた足なの心は軽く帰途につきました。



コロナ禍で自粛を余儀なくされました企画《恩師と共に記念館・美術館を愉しむ！》は2022年秋にお届けする予定です。会員の皆様、本棚劇場へご案内いたします。

跡見学園と 渋沢栄一氏との つながり

渋沢氏が明治四十二年から大正六年まで跡見高等女学校の顧問をされていましたのはAtomium Blossom 五十号で既報の通り、そして五十一号では花蹊女史の祝賀会へ祝辞が贈られ、その交流を示す資料が特集されました。（渋沢栄一記念財団・伝記史料）
一紫会では『花蹊日記』を繙きますと、学祖と渋沢氏のプライベートに及ぶ交流の記述がございました。

二〇二四年には新札として益々身近になります渋沢氏は、特に女子教育に尽力され、経済的にも支援されました。

明治八年 跡見花蹊が先陣を切って 日本の女子教育を スタート！

明治六年に銀行創設し、実業家として転機を迎えたところで、同齡のしかも女史が私立女学校開校という偉業に、さぞ敬服されたのではと、後年、学祖八十歳寿宴に渋沢氏から寄せられた賛辞から識ることが出来ます。

二〇二二年五月十五日(土)に大学
東京キャンパスにて開催を予定してあり
ました一紫会幹事総会ですが、新型コロナ
ウイルス感染拡大による緊急事態宣言
の再発令を受け、対面での実施を中止と
し、書面表決を行うことを決定いたしま
した。

六月十二日(土)の常任幹事会におい
て、書面表決の実施方法ならびに議案等
について審議し、七月三日(土)の常任
幹事会にて結果を集計し、一紫会会則第
十九条の規定に基づき、すべての議案に
ついて三分の二以上の賛成をもって可決
されたことを確認いたしました。

幹事の皆様にはお忙しい中ご協力いた
だき、誠にありがとうございました。今
年度の総会も異例な形となりましたが、
関係者の皆様に深くお礼申し上げます。

新役員紹介

- 幹事長 羽吹綾子
- 副幹事長 藤澤恵美
- 常任幹事 須永マサ江・若泉雪子
吉田真知子・藤田理恵子
土田理佳子・三原幸恵
丸子 純・城井万美代
御所文子・北沢江利

監事 福岡みつる・川村智美

新幹事紹介

本年度第五十三回卒業生より、下記
の方々が一紫会幹事をお引き受けく
ださいました。(敬称略五十音順)

《文学部》

- ◆人文学科
高橋 舞・森田紗映子
- ◆現代文化表現学科
久保田紗生・中山怜香
- ◆コミュニケーション文化学科
本名靖代・安田二千花
- ◆臨床心理学科
柴田 梢・柳田怜子

《マネジメント学部》

- ◆マネジメント学科
梅村葉月・杉田つくし
増淵彩花・松田真由子
山口彩花
- ◆生活環境マネジメント学科
塚本有里・本間有紀子

《観光コミュニケーション学部》

- ◆観光デザイン学科
大河原梓・岸野若葉
- ◆コミュニケーションデザイン学科
井戸川紗矢香・長谷香苗

令和3年度全国会員数

- 北海道支部 一二四名・東北支
部 三八〇名・新潟支部 一八五
名・北陸支部 一〇八名・関東
二・三、〇六四名・静岡支部 二〇六
名・甲信支部 三〇二名・中部支部
一五二名・関西支部 一九五名・中国
支部 一〇八名・四国支部 八二名・
九州支部 一八四名
 - 全国総会員数 三五、四七二名
 - 有効会員数 二五、〇九〇名
- (二〇二二年一〇月現在)

令和2年度収支決算報告

自令和2年4月1日
至令和3年3月31日

(収入の部)		(単位:円)			
科目	予算額	決算額	増減額	備考	
収入	会費	26,020,000	24,200,000	△1,820,000	1,210名
	事業収入	10,000	7,000	△3,000	
	受取利息	100	129	29	
	前年度繰越金	4,210,879	4,210,879	0	
合計	30,240,979	28,418,008	△1,822,971		

(支出の部)		(単位:円)			
科目	予算額	決算額	増減額	備考	
事務費	通信費	4,000,000	3,534,264	△465,736	
	印刷費	2,000,000	1,506,340	△493,660	
	企画費	5,500,000	2,611,296	△2,888,704	
	記念品費	4,000,000	3,721,620	△278,380	
	慶弔費	100,000	26,500	△73,500	
	校友会入会金	249,300	249,300	0	831名
	旅費・交通費	3,000,000	2,696,000	△304,000	
	会議費	300,000	104,159	△195,841	
	交際費	250,000	100,000	△150,000	
	備品費	100,000	0	△100,000	
	消耗品費	250,000	228,075	△21,925	
	監査費	60,000	60,000	0	
	雑費	150,000	79,522	△70,478	
予備費	181,679	0	△181,679		
奨学金	大学院奨励金	600,000	416,850	△183,150	
	修学援助金	4,000,000	3,915,000	△85,000	
	海外研修助成金	1,500,000	1,340,000	△160,000	
積立金	終身会費積立金	4,000,000	5,000,000	1,000,000	
	小計	30,240,979	25,588,926	△4,652,053	
本年度剰余金	0	2,829,082	2,829,082		
合計	30,240,979	28,418,008	△1,822,971		

全会員数: 35,040名
終身会費預り金: 68,520,000
終身会費積立金残高: 23,698,133

令和3年度収支予算

自令和3年4月1日
至令和4年3月31日

(収入の部)		(単位:円)	
科目	予算額	備考	
収入	会費	23,880,000	1,194名
	事業収入	10,000	
	受取利息	200	
	前年度繰越金	2,829,082	
合計	26,719,282		

(支出の部)		(単位:円)	
科目	予算額	備考	
事務費	通信費	4,000,000	
	印刷費	2,000,000	
	企画費	5,000,000	
	記念品費	4,000,000	
	慶弔費	100,000	
	校友会入会金	292,800	976名
	交通費	1,000,000	※1
	人件費	3,000,000	※2
	会議費	500,000	
	交際費	200,000	
	備品費	50,000	
	消耗品費	300,000	
	監査費	60,000	
雑費	100,000		
予備費	16,482		
奨学金	大学院奨励金	600,000	
	修学援助金	4,000,000	※3
	海外研修助成金	1,500,000	
合計	26,719,282		

※1・※2 昨年度は旅費・交通費として計上していましたが、前回までの総会での指摘を受け明
瞭化するために交通費・人件費に分けることといたしました。
※3 昨年度同様、今年度もコロナ禍により同額といたしました。

英国国立スターリング大学の2019年度春期研修者26名に海外研修助成金を支給させていただきました。
大学より素敵なメッセージを戴きましたので、掲載させていただきます。

跡見校友会一紫会の皆様へ

跡見校友会一紫会の皆様、海外研修助成金を受給いたしました。誠にありがとうございました。今回の海外研修は私にとってとても貴重な経験になりました。今後の活動にも力を入れて頑張っていきたいと思っております。皆様、体調管理にお気をつけてお過ごしください。本当にありがとうございました。
S.A

この度は海外研修助成金として五万円の支給を有難う御座いました。私は今回のイギリス留学を通して様々なことを経験し、沢山の素敵な出会いがありました。これからもこの経験を胸に精進していきたいと思っております。
S.A

この度は、跡見校友会一紫会海外研修助成金への出資ありがとうございます。また、こうして受給対象者に選んでいただきありがとうございます。助成金は、これからの大学生活で有意義に使わせていただきます。今後も、精進してまいります。
I.H

跡見校友会一紫会様 この度は海外研修助成金をいただき、ありがとうございます。今回の研修は、コロナウイルスの影響で行われなかった行事や観光がありましたが、その中でも充実した40日間を過ごすことができました。この経験を忘れずにこれからの勉強に活かしていきたいです。
S.M

跡見校友会一紫会の皆様、助成金を出資していただき、ありがとうございます。海外研修の経験も生かしながらいいただいた助成金を有効に使っていききたいと思います。改めて助成金を出資していただき、ありがとうございます。
S.M

この度は跡見校友会一紫会海外研修助成金をありがとうございました。今回の海外研修を通して、外国語を使っているコミュニケーションの楽しさや大変さを知ることが出来ました。この経験を活かし、これからも勉学に励んでいきたいと思っております。
T.Y

跡見校友会一紫会の皆様 街角はすでにクリスマスの準備が整い、ツリーが夜になると輝いています。跡見校友会一紫会の皆様にはご健勝のこととお喜び申し上げます。この度は、跡見校友会一紫会海外研修助成金をいただき、ありがとうございます。今回のことを機に、これからも英語や専攻学科の勉学に励んで参ります。コロナ禍で大変なご時世ではありますが、お身体にお気をつけて下さい。本当にありがとうございました。
N.S

この度はご寄付金を賜りまして誠にありがとうございました。海外での経験と今回のご支援を今後に活かしていけるよう、海外に対する見識を深め、より一層精進をしてまいります。
E.A

この度は助成金のご支援を頂きまして、誠に感謝しております。今回の海外研修を経て、多くのことを学ばせて頂きました。異文化交流や現地の英語に触れて、今まで以上に語学勉強をしていきたいと思っております。
S.R

この度、助成金を支給していただき誠に有難う御座います。跡見学園女子大学で参加させていただいた海外研修での学びを忘れず、より勉学に一生懸命努力をして参ります。
H.M

この度はご支援いただきありがとうございました。今回の海外研修はコロナウイルスの影響で大変なこともありましたが、実際に他国に行くことで学んだことも多く、とても貴重な経験になりました。本当にありがとうございました。
M.N

この度は一紫会の皆様からのあたたかい支援ありがとうございました。頂いた助成金を勉学に活かし、これからも精進して参ります。心より御礼を申し上げます。
K.Y

この度は跡見校友会一紫会海外研修助成金を賜りまして誠にありがとうございました。まさかこのような助成金をいただけるかと思っておらず、とても驚いております。ここで慢心せず、さらに勉学に励んでまいりますので、今後ともよろしくお願いたします。
H.M

初めまして、文学部コミュニケーション文化学科2年のM.Sと申します。この度は英国国立スターリング大学研修の助成金として五万円を下さり、誠にありがとうございます。学業に関するものに役立てさせていただきます。本当にありがとうございます。
M.S



2019年度春期英国国立スターリング大学研修参加者より

事務局より

二〇二一年七月十四日(水)、一紫会会室にて学生会・紫祭実行委員会へ活動費を支給させていただきました。



紫祭実行委員長
文学部人文学科三年
櫻井柚香様
学生会会長
文学部人文学科三年
舛谷聡子様

イベントスタッフ募集

一紫会では、イベント等で常任幹事をお手伝いいただける方を募集いたします。〒住所、氏名、回生、学科、電話番号、メールアドレスをご記入の上、お問い合わせください。

さくら咲く募金

募金については、以下のQRコードより詳細をご覧ください。



大学より

退職された先生方

《文学部》

- 人文学科名誉教授 紀井利臣先生
- 人文学科名誉教授 奥田洋子先生
- 人文学科准教授 三谷 博先生
- 人文学科准教授 寺本敬子先生

《観光コミュニケーションデザイン学科教授

安島博幸先生

会員所在確認のお願い

近年、災害による移転など、転居先不明が多数出ています。ご友人が転居されていて、会報が届いていないことをご存知の方は、是非ご本人様より転居のご連絡を頂きますようお願いください。卒業生の皆様との絆を大切に守るため、何卒ご協力の程お願い申し上げます。

住所・氏名の変更方法

以下の内容を記入し、住所変更と題して下記の一紫会事務局まで FAX または封書・ハガキでお送り下さい。

1. 会員番号 (分かる方のみ記入。一紫会だけが届いている方は、封筒宛名の下 No. です。)
2. 卒業回生・学科名・クラス (回生が不明の場合は、卒業年でも可)
3. 氏名 (フリガナ)
4. 旧姓 (フリガナ)
5. 現住所 (郵便物を受け取ることでできる連絡先。郵便番号必須・様方など)
6. 電話番号 (携帯可)

訃報

- 令和二年十二月二十三日
文学部コミュニケーション文化学科教授 田中浩史先生 享年六十九歳
- 令和三年六月十八日
文学部名誉教授 田中倫郎先生 享年九十二歳
- 令和三年九月三十日
文学部名誉教授 室伏信助先生 享年九十歳
- 卒業生一同、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

各種お申し込み・ご連絡先



〒112-8629 東京都文京区大塚1-5-9 跡見学園 跡見校友会一紫会 FAX 03(3941)8642 <https://ak-issaikai.com/>

◆ホームページ公開記念 オリジナルグッズプレゼント実施中！ 詳細はホームページTOP<イベント告知>をご覧ください。